



2016年にリスク管理部長に就任し、100名のマネジメントがスタート。課長17名を抱える大組織で、メンバー全員に成果を出してもらおうと、全力で取り組んでいた日々。

「勝ち負け」で始まった
社会人人生

大学卒業と同時に日本火災海上保険（現損保ジャパン）に入社。同じ大学の先輩が多いという理由で選んだ会社でしたが、入社してすぐに「勝ち負け」を意識するようになります。常に同期と比較して、負ければ悔しがり、勝てば心の中でガッツポーズ。そんな社会人人生がスタートしました。資産運用部門で15年勤める間に管理職昇格。その後、経営企画部門、リスク管理部門を経て、2016年にリスク管理部長に昇格。一見、順風満帆な職業人生ですが、本当に仕事を楽しめていたかと問われると、答えに窮してしまいます。まだ人生の本当の使命には出会っていませんでした。

「なんとかして部下に仕事をさせなければ」という思いが先行し、指示をした仕事をホワイトボードに書いて管理するようになりました。終わった仕事は消し、終わらない仕事はずっと残しておく。いつしかホワイトボードは「パワーハラボード」と呼ばれるようになりました。それでも部下は私が思うようには仕事をしてくれませんでした。このままではまずいと思っていたそんなとき、ある研修でこんなことを教わりました。「外側からの刺激によつて人をコントロールすることはできない。自分がやっていたことに全く効果がなかったことに気付いた私は、ホワイトボードの使い方を変えました。毎朝部下に対するポジティブなメッセージを書くように変えたのです。「パワーハラボード」が「パワーボード」へと変化した瞬間でした。これを境に、部下との関係性が改善し、仕事が進み始めます。2年後、自身が主導したリスク管理体制構築が奏功し、評価機関から日本最高ランクの格付けを獲得。2019年には執行役員に昇格することもできました。この経験から私の価値観は変わり、同時にマネジメントに悩む管理職の支援を生涯の使命

としようという思いが募っていきました。

60歳で社労士に一発合格。
日本の底力向上を目指して

企業研修講師として様々な企業の管理職研修を担当してきました。組織人に直接教えることができる講師業にはやりがいを感じているものの、学んだことを現場で実践してくれているのだろうか、という疑問も生じました。マネジャーを直接現場でサポートし、組織人の幸福度アップに寄与したいという思いから、一念発起して60歳で社会保険労務士の資格にチャレンジし、合格を果たしました。

その後、コーチングの技術も体得し、現在は経営者の悩みに寄り添い、組織に関わるすべての人が幸せを実感できる会社経営をサポートしています。日本には6000万人の組織人がいます。その一人ひとりが、月曜日が憂鬱になるのではなく、待ち遠しく思えるような社会を創りたい。そして、良好な人間関係を基盤とした盤石な経営体質の会社を増やすことが、日本の底力の向上に繋がると確信しています。

組織に関わるすべての人が 生き生きと働く社会を目指して――

ヴェント湘南パートナーズ代表

伊豆原 孝



合格率6%の社労士試験に60歳で初挑戦。「6%もあるなら楽勝じゃないか!」と妙な自己概念の高さで捉え、猛勉強を開始。翌年一発合格を果たしました。

「月曜日が待ち遠しい! 会社が楽しい!」

あなたの会社のすべての社員が
そう思ってくれていたとしたら、いかがでしょう?
経営者として、幸せですね。

しかし、社員に生き生きと仕事も人生を楽しんで欲しいと思っているものの、
実際は、マネジメントや組織づくりに悩み、孤軍奮闘している経営者は少なくありません。

大切なのはまず、経営者が見ている景色と、
社員の見ている景色の違いを知っていただくこと。

それが、社員と良好な人間関係を構築し、
目標達成に向けて一丸となるための土台になります。

私は、39年間の組織人としての経験と
研修講師、プロコーチ、社会保険労務士としての知見から、
経営者の思いを実現する伴走者としてサポートしています。

月曜日が待ち遠しい社員で溢れる会社を
共に創り上げていきましょう。

伊豆原 孝

私から、はじまる。未来をひらく100の言葉

経営者や個人事業主ではない被雇用者である組織人には、
先頭に立って行動するというよりは、誰かからの指示を待ってから動く傾向があります。
しかし、目の前にあることを良い方向に変えていこうとしたとき、まずは自分から
率先して動き出すことが大切です。すべてのことは「私から、はじまる」のです。

(『私から、はじまる。未来をひらく100の言葉』(2022年、アチーブメント出版)「はじめに」より抜粋)



お客様の声

日々の様々な出来事に、目から鱗のヒント
を貰える内容。著者の人を大切にする気
持ちが随所に感じられ、読み終わった後
に幸せな気持ちになります。

リーダーの発信力によって世界が
変わると分かりましたし、この本は
今後もビジネスで使わせて頂きます。
ありがとうございます。



ヴェント湘南パートナーズ
TEL : 090-8172-4906 E-mail : izuhara@vento-sp.com



思いのある経営者の組織づくりをサポートします

対話を通して組織を幸せに導く伴走者

「経営者が 「裸の王様」に陥りやすい理由

以前、富士山に登ったときにこんな気づきがありました。一つ目は、頂上からしか見えない景色があるということです。頂上は視界が開けていて、決して5合目からは見ることができない景色を眺められます。そして二つ目の気づきは、頂上に立つと、自分自身の姿が見えなくなるということです。このことを組織に置き換えてみるとどうなるでしょうか。頂上にいる経営者からしか見えない課題は、5合目にいる社員たちには見えません。また、経営者は、自分の姿を客観視できないため、裸の王様になってしまう傾向にあるのです。



経営者が陥りやすい 誤った思い込みとは？

経営者と社員がバラバラの景色を見ている会社と、同じ景色が見えている会社。成果を出すのはどちらでしょうか。例えば、「自分の言っていることが社員に伝わっていない」という経営者は、経営者と社員が同じ景色を見ていないことに気づく必要があります。見ているものが違っていれば、出てくる答えが違うのは当たり前です。では、どうすれば同じ景色が見えるようになるのでしょうか？「言葉で伝えれば100%伝わる」と考え、理念やビジョンを一方的に社員に伝えたとしても、それは景色を共有したことにはなりません。社員にしか見えない経営者の姿と会社の状況があります。双方が歩み寄り、働きかけ合うことが大切です。他にも、「自分が過去にうまくできたやり方が今も通用する」「部下に厳しいことを言わない上司が尊敬される」など、組織運営において陥りがちな誤った思い込みは数多くあります。それらを一つひとつ紐解いていくことで、「生き生きと仕事を楽しめる組織」が一日一日と育まれていくのです。

目標達成の土台は チームの関係性の構築

私がリスク管理部長として、日本最高ランクの格付けを獲得できたのは、100名を超えるメンバーとの関係性の構築を重視したマネジメントにシフトしたからと言っても過言ではありません。メンバー一人ひとりと毎日15分ずつ開催していた面談は、最終的に1時間に拡張。一人ひとりと丁寧にコミュニケーションをとることを繰り返しました。

さらに、メンバーと全員で対話をしながらか策定したのが「リスク管理部の約束」です。私たちが大切にする価値観や行動指針を言語化し、何のためにこれをやるのかという明確な目的とビジョンを共有しました。こうして心理的安全性のある環境で関係性の質を高め、共通の大きな目標に向かって協力し合えたことが、リスク管理日本一という最高の結果につながったのです。

組織マネジメント支援で 経営者の熱い思いに伴走する

賃金も生産性も、先進国最低水準と言われる日本。本当にもつたいないと思います。これは、日本の組織人が生きがいややりがいを持って働けていないことが根本的な原因だと思うのです。日本の生産性向上の鍵は「組織人を元気にすること」。これに尽きます。そして、これに最も関心があるのはやはり、経営者だろうと思います。熱い思いはあるのに、社員が十分にその能力を発揮できる環境をうまく作れない。熱い思いをどうやって社員に伝えればいいのかからない。そして、その思いの強さゆえに社員との温度差ができてしまっている。そんな経営者の力になるため、プロコチ、研修講師、自立型人財・組織育成士として身につけたスキルを総動員し、経営幹部育成を中心とした組織マネジメント支援を続けてまいります。

ご提供サービス

経営者エグゼクティブコーチング

組織診断に基づく組織変革

幹部へのコーチングを通じての伴走支援

- ✓ 自分の思いが十分伝わっていない
- ✓ 部下にどう向き合えばよいか分からない
- ✓ 自分一人で頑張っている感覚がある

大切にしている価値観

感謝

当たり前のものなど何もない。自らのおかれた環境、出会ったすべての人に感謝する。

愛

相手の望みを叶えることを自分の望みとする。与える愛に生きる。

責任

目の前で起きていることはすべて自分が源と捉え、周りのせいにせず、自分にできることを考えて行動する。

PROFILE

伊豆原 孝

ヴェント湘南パートナーズ 代表

1964年生まれ、大阪府出身。損保業界で39年勤務。資産運用部門、経営企画部門を経て、2018年、リスク管理において日本の保険会社で最高ランクの格付けを獲得した後、グループCRO（最高リスク責任者）執行役員に就任する。研修講師としても、組織マネジメント、リーダーシップなどの分野で多数登壇。2024年に社会保険労務士試験に合格して独立。経営者に伴走し、経営幹部の育成をサポートすることで、「組織に関わるすべての人が生き生きと仕事と人生を楽しめる社会の実現」を目指している。神奈川県藤沢市在住。趣味は合唱、マラソン、サーフィン。

伊豆原孝の人生年表

- 1986年 日本火災海上保険に就職
大阪での営業
 - 1989年 国際大学留学、MBA取得
 - 1991年 本社運用部門で、債券運用
 - 2008年 国際規制担当、海外出張が続く
リーマンショック
 - 2012年 リスク管理部へ異動
 - 2019年 SOMPOグループCRO
（最高リスク責任者）執行役員就任
プロスピーカー試験合格
 - 2021年 日本損害保険協会常務理事就任
JPSA組織人部会設立
 - 2022年 企業研修講師デビュー、書籍出版
 - 2024年 社会保険労務士試験合格
 - 2025年 損保協会役員退任、
ヴェント湘南パートナーズ創業
社労士登録
- 保有資格
- ・社会保険労務士 ・経営学修士(MBA) ・自立型人財・組織育成士
 - ・(一財)生涯学習開発財団 認定プロフェッショナルコーチ(コーチング)
 - ・アチーブメント株式会社認定トレーナー(法人研修)
 - ・(一財)日本プロスピーカー協会認定シニアプロスピーカー
 - ・米国ワイリー社認定DiSC®トレーナー

多くの仲間 支えていただいています



損保協会の役員を退任する2年前、今後何をしようかと悩んでいた私。そんな時に仲間が「伊豆原さんの伝えるべき相手は、本当に組織人なんですか?」と一言。この問いのおかげで「私が伝えるべき相手は経営者かもしれない」と、自分の使命に気づけたのです。

自分と向き合う時間を 大切にしています



学生時代、卒論用に買った万年筆を40年間使い続けています。この万年筆で毎朝自分と向き合い、ノートに書くのが日課です。「私は何を求めているのか」という問いに対し「社会から求められる人間でありたい。私の価値は何だろうか?」と自分の頭の中にあるものをアウトプットし、深めるように書いていきます。長年書き続けてきたので、今ではこのノートが20冊以上になりました。全て手元に置いてありますが、捨てられなくて困っています(笑)

伊豆原孝 トリセツ

人から 言われます

実行力 向上心 包容力 利他の心

話してみると
意外に面白い



1996年から2019年まで、約24年間地元の男声合唱団で活動していました。今は、5人の少人数でコーラスを楽しんでいます。



妻と趣味を楽しんでいます。最近、妻が昔から行きたがっていた屋久島へ1泊2日の縄文杉トレッキングに行ってきました。

実はプライベートでは 数々の失敗エピソードの 持ち主です。

一番の失敗は「パスポート紛失事件」。海外出張に行った際、部屋へ戻ると、パスポートがない!油断して、ポケットにパスポートの入った上着をレストランの椅子の背もたれにかけたままにしていたのです。他にも、Facebookのアカウントを乗っ取られてしまったこともあります……「リスク管理日本一!」なんて言いながら、まったく自分のリスク管理ができていない私でした。